

令和3年

火災・救急・救助統計

松山市消防局



# 目 次

火災の状況	1
1 火災件数	
(1) 火災件数の推移	2
(2) 火災種別の構成割合	2
(3) 建物用途別件数	3
(4) 月別件数	4
(5) 四季別件数	4
(6) 時間帯別件数	4
(7) 地区別件数	5
(8) 地区別件数の推移	6
2 出火原因	7
3 死傷者	
(1) 死傷者数の推移	8
(2) 死者の状況	8
(3) 負傷者の状況	8
4 損害額	9
5 覚知方法別火災件数	10
6 初期消火の状況	10
7 署所別の火災状況	11
8 住宅用火災警報器の奏功事例	12

## 救急の状況

1	救急出動件数・搬送人員の状況	13
2	月別救急の状況	14
3	医療機関別搬送状況	14
4	署所別出動件数の状況	15
5	年齢別・性別搬送人員の状況	15
6	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	16
7	時間帯別出動件数の状況	16
8	現場到着所要時間の状況	17
9	収容所要時間の状況	17
10	応急処置実施状況	18
11	応急手当普及啓発活動の状況	19
12	地区別救急発生状況	20

## 救助の状況

1	救助出動等の状況	21
2	救助出動等の推移	22
3	事故種別・署別出動の状況	23
	事故種別出動件数と構成割合	24
	事故種別救助人員と構成割合	24
4	月別救助出動等の状況	25
5	事故種別・傷病程度別救助人員	25
6	発生場所別の出動状況	26
7	地区別救助出動状況	27

火 災



# 火災の状況

令和3年中の火災件数は113件で、前年と比較し増減はありません。  
 火災による死者は6人(前年7人)、負傷者は46人(前年32人)となっています。  
 また、火災による損害額は1億8,008万7千円で、前年と比較すると962万9千円増加しています。

(各年中) (▲減少)

区 分	単位	令和3年		令和2年		増 減 (A-B) C
		A	爆発	B	爆発	
火 災 件 数	合 計	113		113		
	建 物 火 災 (住宅火災)	83 (56)		75 (47)		8 9
	林 野 火 災	3		3		
	車 両 自 動 車 火 災 鉄 道	7		6		1
	船 舶 火 災			1		▲ 1
	航 空 機 火 災					
	その他の火災*1	20		28		▲ 8
	焼 損 棟 数	合 計		124		112
	全 焼		23		23	
	半 焼		5		6	▲ 1
	部 分 焼		29		28	1
	ぼ や		67		55	12
	爆発損害棟数		1			1
焼 損 面 積	建物焼損 床面積	m <sup>2</sup>	3,436		2,227	1,209
	〃 表面積		360		535	▲ 175
	林野焼損面積	a	6		32	▲ 26
死 傷 者	死 者 (住宅火災死者)	人	6 (5)		7 (7)	▲ 1 ▲ 2
	負 傷 者		46		32	14
り 災 世 帯	合 計		93		67	26
	全 損		17		16	1
	半 損		4		5	▲ 1
	小 損		72		46	26
り 災 人 員	人		196		145	51
損 害 額	合 計		180,087		170,458	9,629
	建 物		174,455		166,455	8,000
	林 野					
	車 両 自 動 車 鉄 道	千円	4,914		2,551	2,363
	船 舶				228	▲ 228
	航 空 機					
	そ の 他		691		1,224	▲ 533
	爆 発		27			27
出 火 率 *2	件		2.22		2.21	0.01

(注) \*1 その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

\*2 出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。  
 (人口は、令和3年1月1日現在の住民基本台帳による)

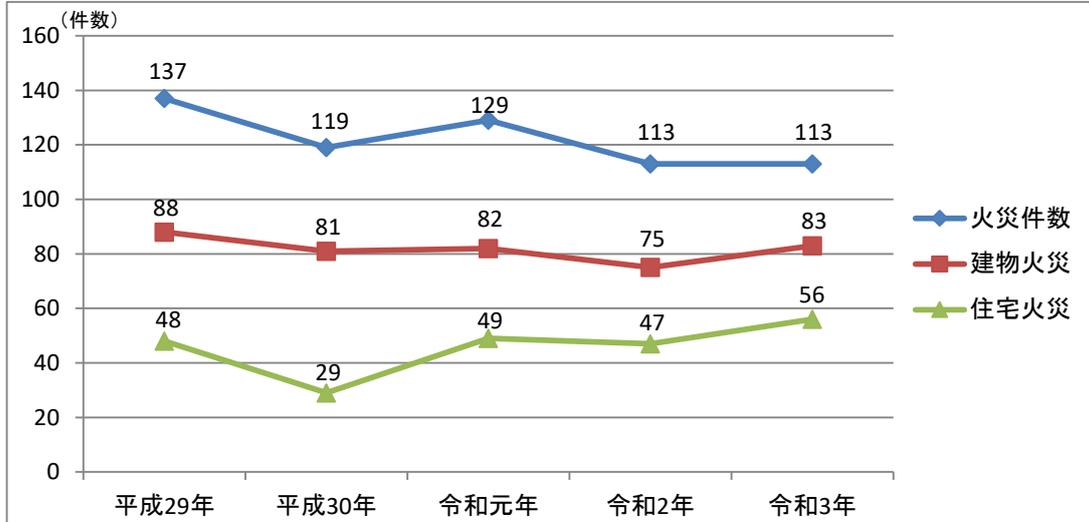
# 1 火災件数

## (1) 火災件数の推移

火災件数は前年と比較し増減なしで113件となっています。

また、建物火災件数は前年より8件増加した83件となっており、過去5年間平均値の81.8件とほぼ横ばいとなっています。

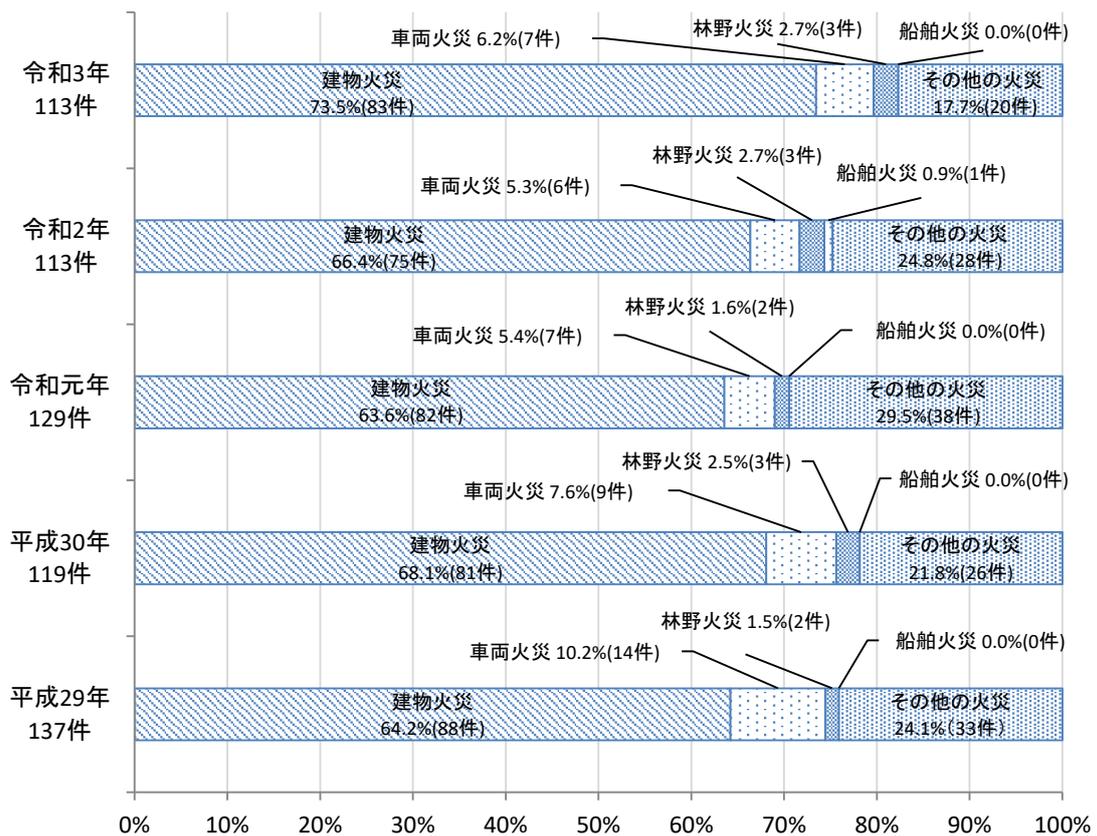
(各年中)



## (2) 火災種別の構成割合

火災種別ごとの割合をみると、建物火災が全火災の73.5% (83件) を占めており、次いで、その他の火災17.7% (20件)、車両火災6.2% (7件)、林野火災2.7% (3件)、船舶火災0.0% (0件) となっています。

(各年中)



(注) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(3) 建物用途別件数

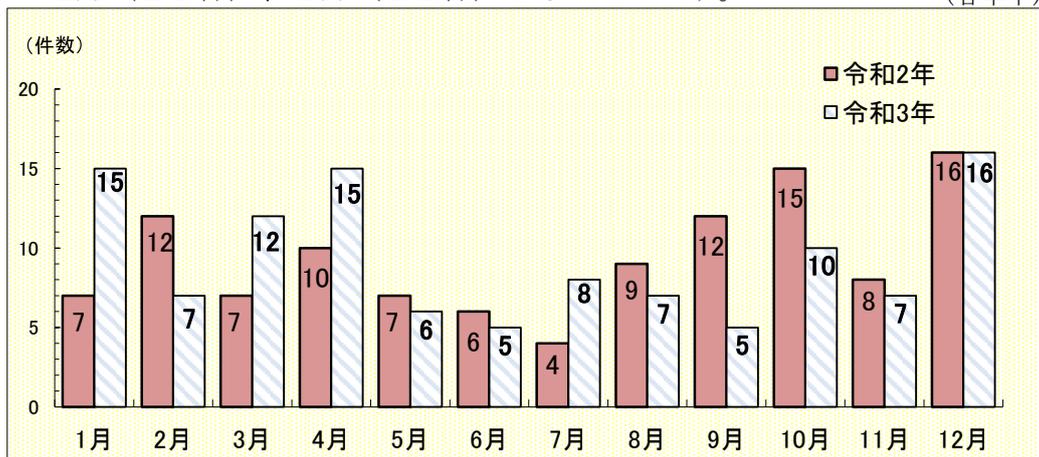
建物火災を用途別にみると、住宅（共同住宅・併用住宅を含む）の火災が56件と最も多く、建物火災全体の67.5%を占めています。

(各年中)

用途	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
専用住宅	36	32	27	18	30
共同住宅	17	13	22	9	18
併用住宅	3	2		2	
小計	56	47	49	29	48
劇場等					
公会堂等			1		
キャバレー等					
遊技場等					
性風俗施設					
カラオケボックス等					
料理店等					
飲食店	3	4	6	7	2
物品販売店舗等		5	4	1	
旅館・ホテル等				1	2
病院等				1	
グループホーム等					
社会福祉施設等					
幼稚園等					
学校	1	1	1		1
図書館等					
特殊浴場					
公衆浴場					
停車場等					
神社・寺院等					
工場・作業場	1	6	4	5	2
スタジオ					
駐車場等	1				
航空機格納庫					
倉庫	1	3	5	4	3
事務所等	1		4	17	8
特定複合用途	5	3	2	7	10
非特定複合用途	3	2	2	6	4
地下街					
準地下街					
文化財					
その他	11	4	4	3	8
小計	27	28	33	52	40
合計	83	75	82	81	88

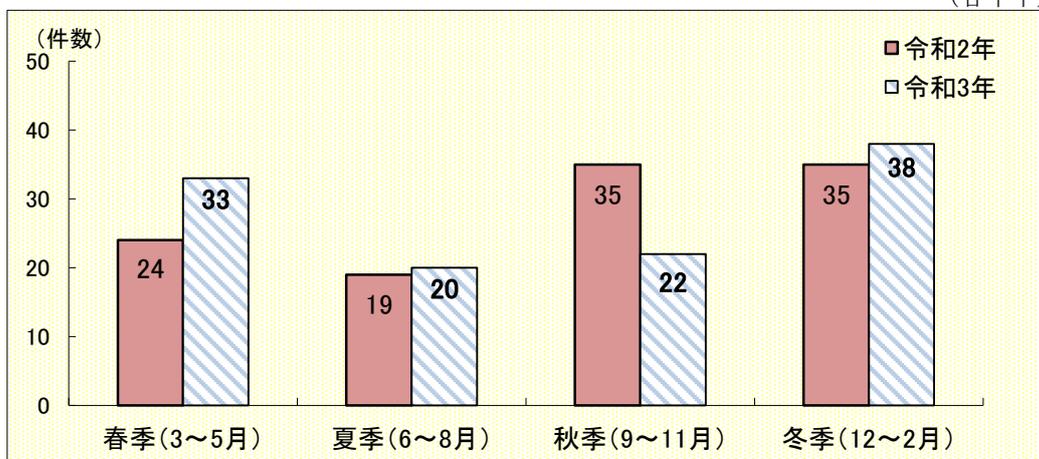
(4) 月別件数

火災件数を月別にみると、12月が16件で最も多く、次いで1月、4月（15件）、3月（12件）となっています。（各年中）



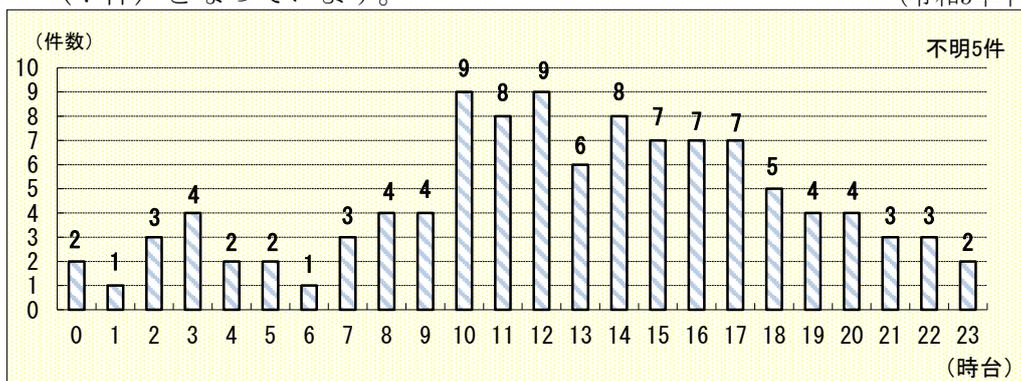
(5) 四季別件数

火災件数を四季別にみると、冬季が38件（33.6%）で最も多く、次いで春季が33件（29.2%）となっています。（各年中）



(6) 時間帯別件数

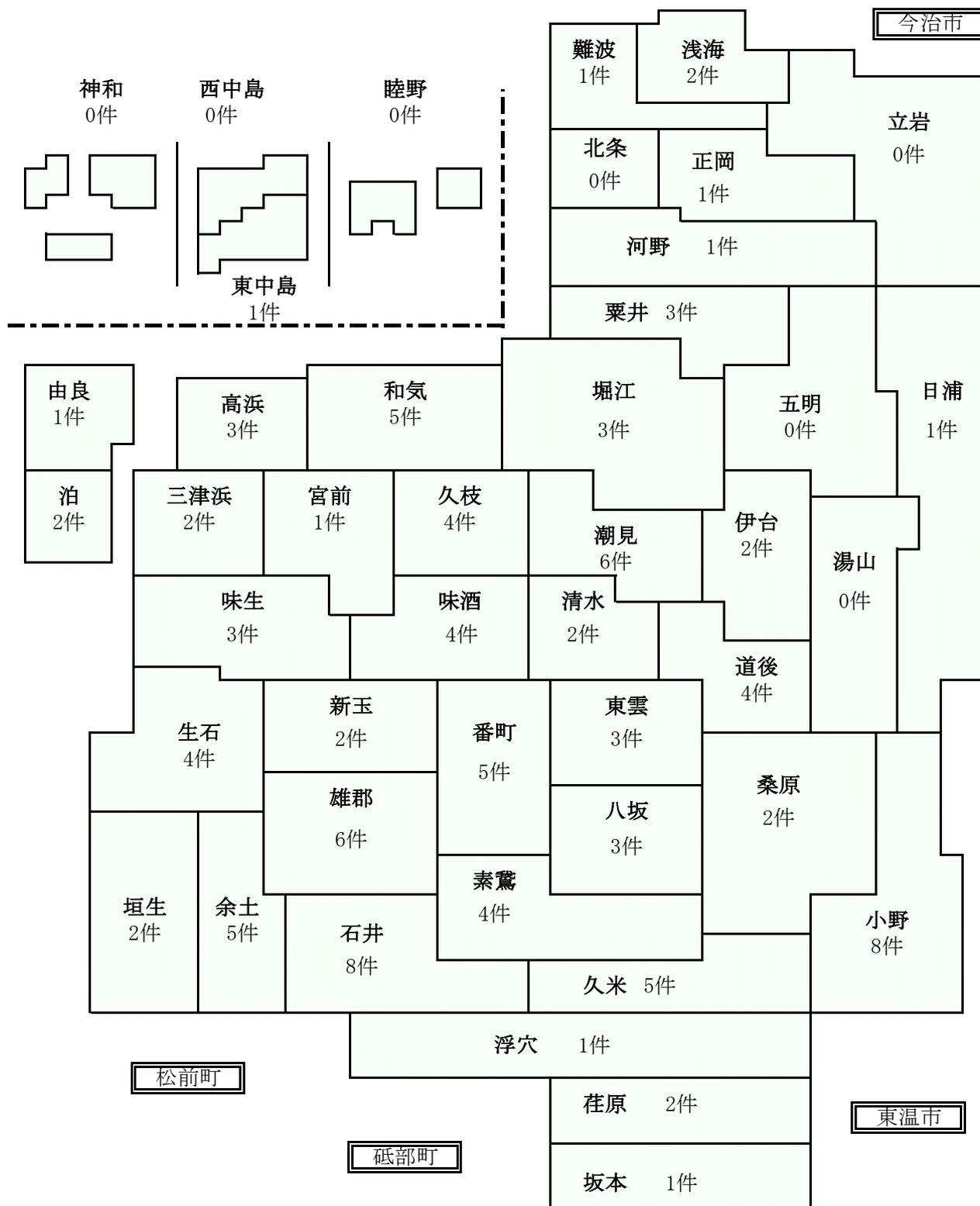
火災件数を時間帯別にみると、10時台、12時台が9件で最も多く、次いで11時台、14時台（8件）、15時台、16時台、17時台（7件）となっています。（令和3年中）



(7) 地区別件数

火災件数を地区別にみると、小野8件（前年2件）、石井8件（前年9件）が最も多く、次いで雄郡6件（前年7件）、潮見6件（前年3件）となっています。

(令和3年中)



※松山市基準地区（44地区）

## (8) 地区別件数の推移

(各年中)

	令和3年	令和2年	令和元年	平成30年	平成29年
番町	5	3	3	7	2
東雲	3	4	5	2	5
八坂	3	2	1	2	4
素鷲	4	9	5	3	6
雄郡	6	7	6	3	14
新玉	2	1	5	3	4
味酒	4	3	3	5	7
清水	2	5	7	7	9
桑原	2	4	6	3	5
道後	4	5	7	10	8
味生	3	5	8	5	3
生石	4	3	7	5	5
垣生	2	3	0	5	4
宮前	1	3	3	5	1
三津浜	2	2	1	0	0
高浜	3	1	4	4	0
久枝	4	1	6	4	1
潮見	6	3	3	2	2
和気	5	1	4	2	7
堀江	3	0	6	4	5
余土	5	6	2	3	4
由良	1	0	0	0	2
泊	2	0	0	1	1
久米	5	3	4	3	1
湯山	0	3	1	2	4
日浦	1	0	0	1	0
伊台	2	0	0	1	0
五明	0	4	0	0	0
小野	8	2	3	5	2
浮穴	1	6	4	3	3
石井	8	9	8	8	5
荏原	2	4	4	4	6
坂本	1	2	2	1	3
浅海	2	3	0	0	3
立岩	0	1	2	0	1
難波	1	1	2	2	1
正岡	1	0	2	0	1
北条	0	0	1	0	1
河野	1	2	0	1	1
粟井	3	2	2	3	3
睦野	0	0	0	0	0
東中島	1	0	1	0	1
西中島	0	0	0	0	1
神和	0	0	1	0	1
合計	113	113	129	119	137

※松山市基準地区(44地区)

## 2 出火原因

全火災113件を出火原因別にみると、「たき火」が17件で最も多く、次いで「こんろ」14件、「たばこ」10件となっています。

(各年中) (▲減少)

出火原因	令和3年	令和2年	増減
たき火	17	11	6
こんろ	14	9	5
たばこ	10	11	▲1
電灯等の配線	8	11	▲3
ストーブ	8	5	3
放火の疑い	7	0	7
放火	6	7	▲1
電気機器	5	4	1
配線器具	3	5	▲2
灯火	3	0	3
火あそび	2	2	
電気装置	1	2	▲1
内燃機関	1	2	▲1
かまど	1	0	1
風呂かまど	1	0	1
焼却炉	1	0	1
ボイラー	1	0	1
煙突・煙道	1	0	1
マッチ・ライター	1	0	1
火入れ	0	2	▲2
こたつ	0	1	▲1
取灰	0	1	▲1
その他*	12	19	▲7
不明・調査中	10	21	▲11
合計	113	113	

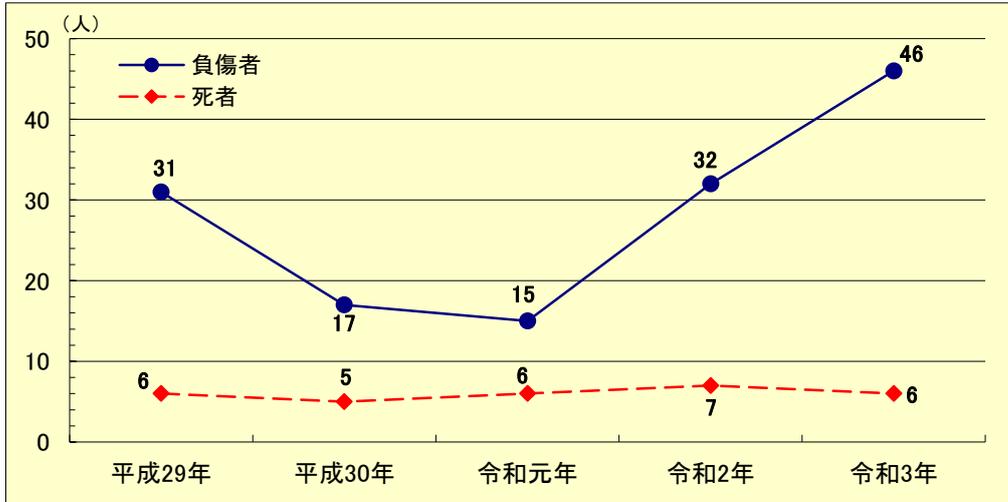
\*出火原因の「その他」とは火花、線香、煙火などがあります。

### 3 死傷者

#### (1) 死傷者数の推移

火災による死者数は6人で、前年（7人）と比較すると1人減少しています。また、負傷者数は46人で、前年（32人）と比較すると14人増加しています。

(各年中)



#### (2) 死者の状況

死者を火災種別及び年齢層別で見ると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

火災種別	令和3年	令和2年
建物火災	5人	7人
車両火災	0人	0人
林野火災	0人	0人
船舶火災	0人	0人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	1人	0人
合計	6人	7人

(各年中)

年齢層別	令和3年	令和2年
5歳以下	0人	0人
6歳～64歳以下	2人	1人
65歳以上	4人	6人
合計	6人	7人

#### (3) 負傷者の状況

負傷者を火災種別及び受傷時の状況で見ると、次表のとおりとなっています。

(各年中)

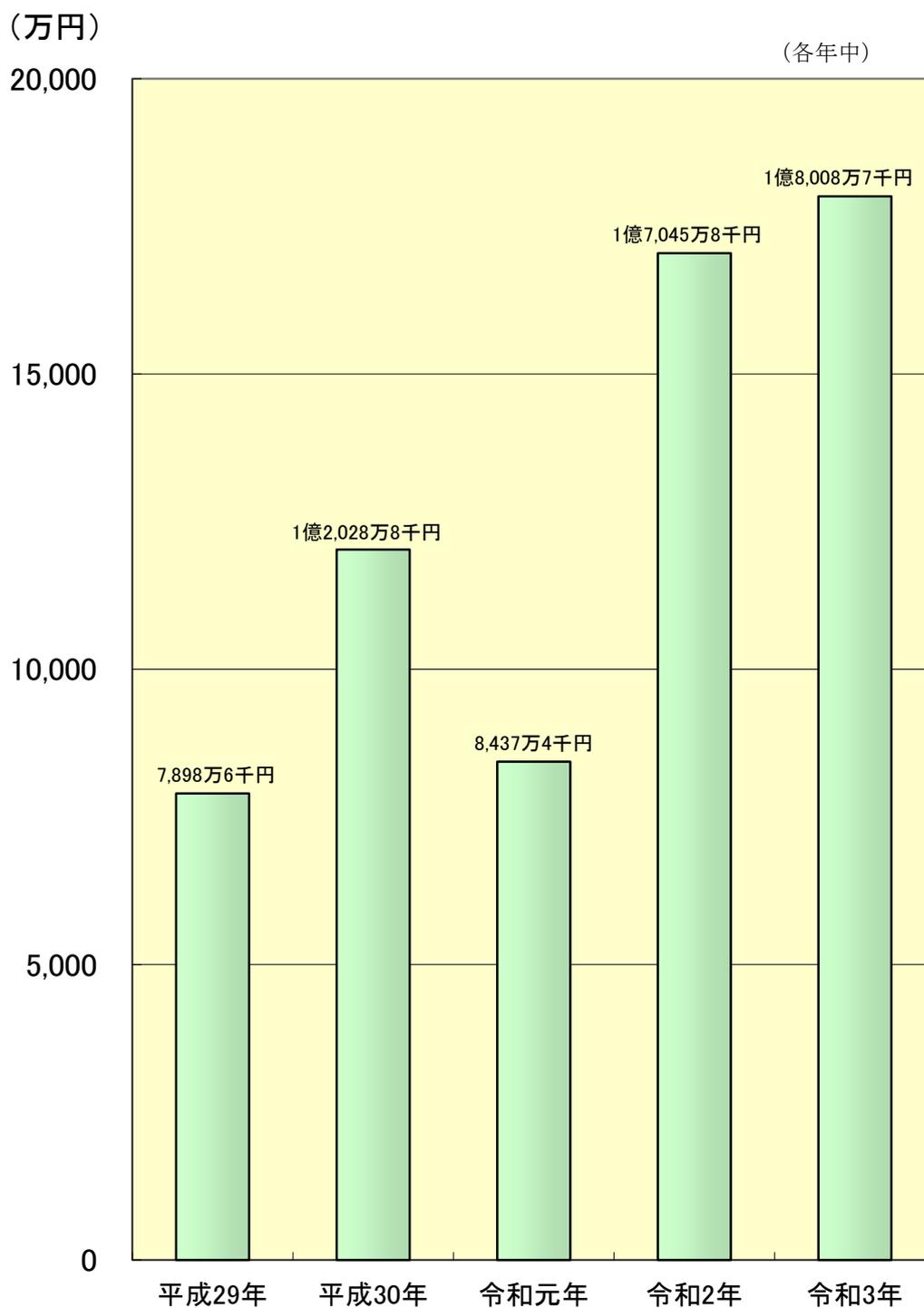
火災種別	令和3年	令和2年
建物火災	45人	25人
車両火災	0人	2人
林野火災	0人	0人
船舶火災	0人	1人
航空機火災	0人	0人
その他の火災	1人	4人
合計	46人	32人

(各年中)

受傷時の状況	令和3年	令和2年
消火中	15人	13人
避難中	21人	10人
就寝中	1人	0人
作業中	2人	6人
その他	7人	3人
合計	46人	32人

#### 4 損害額

火災による損害額は、1億8,008万7千円で、前年（1億7,045万8千円）と比較すると962万9千円増加しています。過去5年間で1番目に多い額となっています。



## 5 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報が53件で最も多く、次いで、事後聞知（火災鎮火後に覚知したものは24件）となっています。（令和3年中）

覚知方法別	区分	件数	構成比 (%)
119（携帯電話から）		53	46.9%
事後聞知		24	21.2%
119（IP電話から）		15	13.3%
119（固定電話から）		11	9.7%
自己覚知		5	4.4%
警察電話		2	1.8%
加入（携帯電話から）		1	0.9%
加入（固定電話から）		1	0.9%
その他		1	0.9%
合計		113	

（注）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 6 初期消火の状況

初期消火の状況をみると、初期消火が実施されたのは79件で、そのうち46件（58.2%）が初期消火に成功し火災鎮圧に効果がありました。

使用された初期消火器具等をみると、水道・浴槽等の水が37件で最も多く、次いで粉末消火器が23件となっています。

（令和3年中）

火災件数	113
初期消火実施	79 (69.9%)
初期消火なし	34 (30.1%)

初期消火使用器具等	実施件数	成功件数	実施比率	成功率
水道・浴槽等の水	37	22	46.8%	59.5%
粉末消火器	23	12	29.1%	52.2%
寝具、衣類等	6	5	7.6%	83.3%
その他	13	7	16.5%	53.8%
合計	79	46		58.2%

（注）実施比率は、合計しても100%にならない場合があります。

## 7 署所別の火災状況

(令和3年中)

署 別	区 分	件 数	死 者	負 傷 者	建物焼損	建物焼損	林野焼損	損 害 額
		(件)	(人)	(人)	床面積(㎡)	表面積(㎡)	面積(a)	(千 円)
		41	1	17	901	135	6	41,086
中央署	本 署	16	1	9	136	77	0	6,625
	城 北	17	0	7	631	52	0	30,872
	北 条	8	0	1	134	6	6	3,589
		21	1	4	798	39	0	44,409
東 署	本 署	12	1	2	122	35	0	25,041
	城 東	9	0	2	676	4	0	19,368
		27	4	6	885	64	0	55,357
南 署	本 署	18	3	4	502	31	0	41,358
	東 部	9	1	2	383	33	0	13,999
		24	0	19	852	122	0	39,235
西 署	本 署	17	0	16	797	121	0	37,593
	西 部	7	0	3	55	1	0	1,642
合 計		113	6	46	3,436	360	6	180,087

## 8 住宅用火災警報器の奏功事例（令和3年）

### 【事例1】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例①

共同住宅の一室で、火元住民が外出中に火災が発生した。近隣住民が警報音に気づき、火元の換気口から煙が出ているのを発見したため119番通報を行った。

### 【事例2】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例②

共同住宅の一室で、火元住民が調理中のフライパンを放置、煙が発生した。近隣住民が警報音と煙のにおいに気づき、火元住民に声掛けをし、火災を未然に防いだ。

### 【事例3】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例③

一般住宅で、火元住民がこんろの火を消し忘れて外出、鍋から煙が発生した。近隣住民が警報音に気づき、119番通報を行い火災を未然に防いだ。

### 【事例4】近隣住民が発見し、火災を未然に防いだ事例④

共同住宅の一室で、火元住民が調理中に外出、鍋が焦げ煙が発生した。近隣住民が警報音に気づき、こんろの火を消し、火災を未然に防いだ。

### 【事例5】火元住民が早期に火災に気づき、初期消火に成功した事例①

共同住宅の一室で、火元住民が調理中に睡眠、調理中の鍋から出火した。火元住民が警報音に気づき目を覚まし、初期消火を実施、消火に成功した。

### 【事例6】火元住民が早期に火災に気づき、初期消火に成功した事例②

一般住宅で、火元住民が調理中にその場を離れ、調理中の鍋から出火した。警報音に気づいた火元住民が水で濡らした座ぶとんなど使い初期消火に成功した。

### 【事例7】火元住民が発見し、被害を最小限に抑えた事例

一般住宅で、火元住民が調理中にその場を離れ、調理中の鍋から出火した。警報音に気づいた火元住民が初期消火を行い、近隣住民も初期消火を支援した。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」、「避難」、「119番通報」をいち早く実施することができ、被害の軽減に役立ちます。

住宅用火災警報器を設置されているご家庭では機器の点検を実施してください。電池切れや故障の場合は、機器の交換をしてください。

住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

救 急



# 救急の状況

令和3年中の救急出動件数は24,632件、搬送人員は22,772人で、前年と比較し出動件数、搬送人員ともに増加しています。

これは、1日平均67.5件、21分20秒に1回の割合で救急車が出動し、市民22人に1人の割合で搬送されたこととなります。

## 1 救急出動件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで出動件数全体の95.4%、搬送人員は全体の97.4%を占めています。

(▲は減少)

区	分	単位	令和3年 A	構成比 (%)	令和2年 B	構成比 (%)	増減 (A-B) C	増減率 (C/B×100) (%)
出動件数		件	24,632	100.0	23,969	100.0	663	2.8
内訳	火災		122	0.5	97	0.4	25	25.8
	自然		1	0.0	0	0.0	1	-
	水難		22	0.1	21	0.1	1	4.8
	交通		1,881	7.6	1,960	8.2	▲79	▲4.0
	労災		160	0.6	179	0.7	▲19	▲10.6
	運動		156	0.6	113	0.5	43	38.1
	一般		3,579	14.5	3,586	15.0	▲7	▲0.2
	加害		86	0.3	93	0.4	▲7	▲7.5
	自損		208	0.8	235	1.0	▲27	▲11.5
	急病		14,937	60.6	14,471	60.4	466	3.2
	転院		3,121	12.7	2,823	11.8	298	10.6
その他		359	1.5	391	1.6	▲32	▲8.2	
搬送件数		件	22,620	-	21,950	-	670	3.1
搬送人員		人	22,772	100.0	22,080	100.0	692	3.1
内訳	火災		39	0.2	30	0.1	9	30.0
	自然		1	0.0	0	0.0	1	-
	水難		8	0.0	10	0.0	▲2	▲20.0
	交通		1,790	7.9	1,898	8.6	▲108	▲5.7
	労災		159	0.7	174	0.8	▲15	▲8.6
	運動		160	0.7	119	0.5	41	34.5
	一般		3,396	14.9	3,394	15.4	2	0.1
	加害		80	0.4	77	0.3	3	3.9
	自損		147	0.6	175	0.8	▲28	▲16.0
	急病		13,885	61.0	13,393	60.7	492	3.7
	転院		3,106	13.6	2,810	12.7	296	10.5
その他		1	0.0	0	0.0	1	-	
出動平均(1日)		件	67.5		65.5			
出動間隔			21分20秒		21分59秒			

※1 出動平均については、前年比1日あたり2件増加しています。

※2 出動間隔については、前年比39秒短くなっています。

※3 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 2 月別救急の状況

出動件数、搬送人員ともに12月が一番多くなっています。

月別	出動件数	出動件数内訳												搬送人員
		火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
1	2,121	17	0	2	127	6	8	309	8	22	1,290	287	45	1,932
2	1,813	8	0	0	121	11	7	279	6	8	1,108	232	33	1,675
3	2,007	9	0	1	169	20	11	277	8	18	1,165	291	38	1,826
4	1,790	17	0	0	149	17	13	244	7	13	1,059	243	28	1,671
5	1,892	7	0	5	131	18	12	286	5	25	1,137	229	37	1,761
6	2,014	5	0	2	160	10	26	265	10	17	1,249	255	15	1,874
7	2,233	10	0	1	180	9	21	306	6	18	1,370	284	28	2,072
8	2,147	7	1	2	160	19	11	277	2	18	1,367	252	31	1,980
9	1,973	5	0	2	145	7	14	293	6	21	1,229	227	24	1,848
10	2,157	14	0	2	175	10	8	334	13	17	1,293	262	29	1,990
11	2,232	11	0	2	186	20	14	347	3	14	1,326	280	29	2,069
12	2,253	12	0	3	178	13	11	362	12	17	1,344	279	22	2,074
計	24,632	122	1	22	1,881	160	156	3,579	86	208	14,937	3,121	359	22,772

## 3 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関20,663人(90.7%)、その他の医療機関2,109人(9.3%)、その他の場所0人となっています。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	12,697	1,699	3,200	3,067	20,663
その他の医療機関	1,188	91	196	634	2,109
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	13,885	1,790	3,396	3,701	22,772

※ 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことです。

#### 4 署所別出動件数の状況

松山市の救急車は、高規格救急車13台と普通救急車1台の合計14台です。

署所 種別	中央署				東 署				南 署			西 署			消防局	合計
	本署	城北	北条1	*北条2	本署	城東1	城東2	湯山	本署	東部	久谷	本署	西部	本署2	非常用	
火災	12	10	7	0	8	16	11	7	18	7	3	8	10	5	0	122
自然	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
水難	1	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	7	0	9	0	22
交通	242	123	54	14	151	317	196	53	180	118	51	108	224	9	41	1,881
労災	22	14	5	2	12	16	9	5	15	13	9	15	16	2	5	160
運動	16	6	8	2	14	12	16	3	10	4	10	7	41	0	7	156
一般	453	261	157	32	343	480	298	112	288	245	120	301	373	67	49	3,579
加害	10	2	1	0	4	24	13	3	8	2	2	6	8	1	2	86
自損	24	11	3	0	18	40	21	9	29	9	7	10	21	3	3	208
急病	1,891	1,043	583	97	1,271	2,201	1,478	441	1,359	1,015	417	1,198	1,505	160	278	14,937
転院	268	132	118	21	438	458	386	89	432	254	43	159	186	50	87	3,121
その他	31	12	3	0	29	61	180	5	7	3	2	8	12	3	3	359
合計	2,970	1,616	940	168	2,288	3,625	2,608	728	2,347	1,671	664	1,827	2,396	309	475	24,632

\*普通救急車

#### 5 年齢別・性別搬送人員の状況

年齢別・性別で搬送人員をみると、高齢者が13,905人で全体の61.1%を占め、性別で見ると女性が男性を上回っています。

区 分	令和3年			令和2年		
	男	女	合計	男	女	合計
新生児	20	19	39	18	21	39
乳幼児	470	306	776	424	259	683
少年	364	300	664	360	234	594
成人	3,741	3,647	7,388	3,774	3,380	7,154
高齢者	6,507	7,398	13,905	6,214	7,396	13,610
合計	11,102	11,670	22,772	10,790	11,290	22,080

(年齢区分)

新生児 生後28日未満の者  
 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者  
 少年 満7歳以上満18歳未満の者  
 成人 満18歳以上満65歳未満の者  
 高齢者 満65歳以上の者

## 6 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡280人（1.2%）、重症946人（4.2%）、中等症8,948人（39.3%）、軽症12,597人（55.3%）、その他1人となっており、軽症の占める割合が多くなっています。

種別 傷病程度	合計	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他
死亡	280	0	0	1	9	0	0	27	0	15	223	5
重症	946	5	0	0	37	5	0	99	1	15	545	239
中等症	8,948	4	0	1	208	56	32	1,048	5	31	4,746	2,817
軽症	12,597	30	1	6	1,536	98	128	2,222	74	86	8,370	46
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	22,772	39	1	8	1,790	159	160	3,396	80	147	13,885	3,107

（注）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。  
（傷病程度）

死亡	初診時において、死亡が確認されたもの
重症	傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症	傷病の程度が入院を要するもので重症に至らないもの
軽症	傷病の程度が入院加療を必要としないもの
その他	搬送したが医師の診断がないもの及びその他の場所へ搬送したもの

## 7 時間帯別出動件数の状況

出動件数が多い時間帯は、10時から12時が3,033件（12.3%）、8時から10時が2,917件（11.8%）となっています。

時間	種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
0時～2時		852	38	114	119	1,123
2時～4時		702	22	111	75	910
4時～6時		638	29	129	100	896
6時～8時		1,022	170	233	109	1,534
8時～10時		1,695	298	447	477	2,917
10時～12時		1,607	218	412	796	3,033
12時～14時		1,468	215	381	737	2,801
14時～16時		1,378	217	382	509	2,486
16時～18時		1,509	294	452	545	2,800
18時～20時		1,630	221	432	337	2,620
20時～22時		1,359	104	303	224	1,990
22時～24時		1,077	55	183	207	1,522
合計		14,937	1,881	3,579	4,235	24,632

（注）構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 8 現場到着所要時間の状況

救急自動車による現場到着時間は、10分未満が18,164件（73.7%）となっており、現場到着時間の平均は8分58秒となっています。

現場到着 事故種別	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	合計	平均所要 時間
急病	92	711	10,080	3,796	258	14,937	9分4秒
交通事故	11	119	1,265	450	36	1,881	8分53秒
一般負傷	21	152	2,337	983	86	3,579	9分23秒
その他	244	483	2,649	717	142	4,235	8分16秒
合計	368	1,465	16,331	5,946	522	24,632	8分58秒
構成比 (%)	1.5	5.9	66.3	24.1	2.1	100.0	—
令和2年 (%)	1.7	8.8	70.0	17.9	1.6	100.0	8分16秒

(注) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 9 収容所要時間の状況

傷病者の病院収容時間は、30分未満が8,021件（35.2%）となっており、病院収容時間の平均は36分46秒となっています。

収容所要 事故種別	10分 未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分 以上	合計	平均収容 時間
急病	2	252	4,127	8,679	802	23	13,885	37分17秒
交通事故	0	28	484	1,162	115	1	1,790	40分01秒
一般負傷	0	42	814	2,296	238	6	3,396	39分14秒
その他	4	583	1,685	1,271	141	17	3,701	30分57秒
合計	6	905	7,110	13,408	1,296	47	22,772	36分46秒
構成比 (%)	0.0	4.0	31.2	58.9	5.7	0.2	100.0	—
令和2年 (%)	0.0	6.5	40.3	49.7	3.4	0.1	100.0	33分25秒

(注) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

## 10 応急処置実施状況

救急救命士等が行った救命処置は、381件（前年478件）となっています。

応急処置	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	応急処置対象人員	13,873	1,787	3,388	3,640	22,688
止血		46	57	228	40	371
固定		48	274	321	95	738
人工呼吸		35	1	9	7	52
心マッサージ		27	0	11	4	42
Ⅱ うち自動		10	0	5	2	17
心肺蘇生		392	9	44	31	476
Ⅱ うち自動		39	1	5	3	48
酸素吸入		2,359	32	142	943	3,476
気道確保		565	13	62	52	692
Ⅱ うち経鼻エアウェイ		5	0	2	0	7
Ⅱ うち喉頭鏡・鉗子等		5	0	4	1	10
救 うちラリソールマスク等		107	3	2	2	114
救 気管挿管		5	0	3	0	8
保温		408	40	94	125	667
被覆		90	533	881	144	1,648
Ⅱ 在宅療法継続		80	0	10	3	93
Ⅱ ショックパンツ		0	0	0	0	0
Ⅱ 除細動		35	0	1	0	36
静脈路確保		92	1	8	5	106
救 うち心肺停止前		25	0	1	0	26
救 うち心肺停止後		67	1	7	5	80
救 薬剤投与		5	0	2	0	7
救 血糖測定		92	1	0	0	93
救 エピペン投与		0	0	0	0	0
救 ブドウ糖投与		17	0	0	0	17
Ⅱ 血圧測定		13,065	1,747	3,170	3,427	21,409
Ⅱ 聴診器		1,662	64	175	173	2,074
Ⅱ 血中酸素飽和度の測定		13,443	1,766	3,278	3,559	22,046
Ⅱ 心電図		3,543	41	148	557	4,289
その他		12,901	1,665	3,175	3,297	21,038
合計		48,905	6,244	11,759	12,462	79,370
拡大された応急処置等		32,205	3,624	6,813	7,732	50,374
（うち救命処置）		353	5	16	7	381

（注）

「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置  
「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置 } 拡大された応急処置等

## 1 1 応急手当普及啓発活動の状況

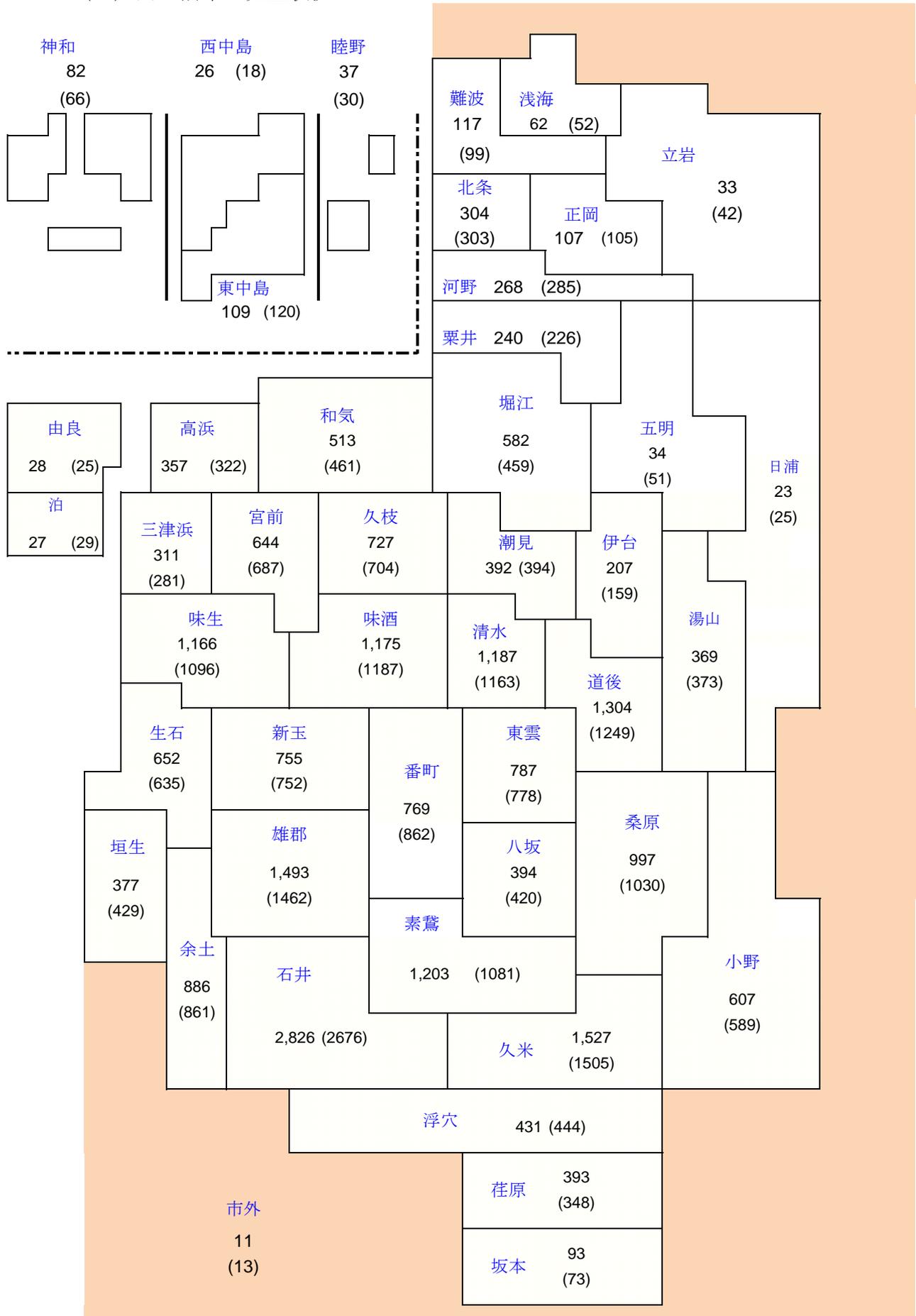
平成6年から令和3年までの28年間で、33万9,319人の市民が応急手当の講習を受講しました。

区分 年	普通救命講習		上級救命講習		その他の講習		合 計	
	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員	回数	受講人員
平成6年	23	944			57	2,850	80	3,794
平成7年	33	1,216			65	3,100	98	4,316
平成8年	42	1,607	2	112	77	4,395	121	6,114
平成9年	48	1,760	4	152	79	4,456	131	6,368
平成10年	67	2,474	5	153	88	4,669	160	7,296
平成11年	118	3,933	6	195	113	7,185	237	11,313
平成12年	133	4,014	8	228	110	6,425	251	10,667
平成13年	139	4,344	13	318	65	3,311	217	7,973
平成14年	152	4,914	33	838	84	3,510	269	9,262
平成15年	195	5,537	38	965	87	4,586	320	11,088
平成16年	219	5,286	41	1,376	59	2,698	319	9,360
平成17年	253	5,943	26	858	126	5,158	405	11,959
平成18年	344	8,631	41	1,124	132	5,781	517	15,536
平成19年	390	9,502	47	1,154	175	7,716	612	18,372
平成20年	389	9,600	43	1,175	216	9,721	648	20,496
平成21年	345	8,342	21	538	251	11,249	617	20,129
平成22年	335	7,910	19	489	217	11,474	571	19,873
平成23年	324	7,211	11	317	236	13,028	571	20,556
平成24年	356	8,389	11	236	201	9,848	568	18,473
平成25年	325	7,550	11	302	146	6,698	482	14,550
平成26年	355	8,014	14	381	158	6,687	527	15,082
平成27年	324	8,146	11	390	147	7,507	482	16,043
平成28年	327	7,905	8	256	138	6,116	473	14,277
平成29年	307	7,640	11	316	118	5,330	436	13,286
平成30年	314	7,666	11	279	121	4,694	446	12,639
令和元年	312	7,024	17	305	169	8,060	498	15,389
令和2年	99	1,806	1	7	20	721	120	2,534
令和3年	143	2,121	5	107	15	346	163	2,574
合 計	6,411	159,429	458	12,571	3,470	167,319	10,339	339,319

## 1 2 地区別救急発生状況

出動件数 24,632 件 (前年 23,969 件)

※ ( ) 内は前年の発生状況



救 助



## 救助の状況

令和3年中の救助出動件数は、213件（前年229件）、活動件数は、159件（前年175件）であり、前年と比較すると、出動件数は16件（7.0%）、活動件数は16件（9.1%）減少しています。

また、救助人員は133人（前年146人）で、前年と比較すると、13人（8.9%）減少しています。

### 1 救助出動等の状況

（▲は減少）

区 分		令和3年 A	令和2年 B	増減 (A-B) C	増減率 C/B×100 (%)
出 動 件 数		213	229	▲ 16	▲ 7.0
活 動 件 数		159	175	▲ 16	▲ 9.1
救 助 人 員		133	146	▲ 13	▲ 8.9
内 訳	男性	71	68	3	4.4
	女性	62	78	▲ 16	▲ 20.5
出 動 台 数		1,223	1,311	▲ 88	▲ 6.7
出 動 人 員		4,136	4,320	▲ 184	▲ 4.3
事 故 種 別 出 動 件 数	火 災	17	15	2	13.3
	交 通	36	52	▲ 16	▲ 30.8
	水 難	14	8	6	75.0
	自 然 災 害	1	2	▲ 1	▲ 50.0
	機 械	8	5	3	60.0
	建 物	104	90	14	15.6
	ガ ス ・ 酸 欠	4	3	1	33.3
	破 裂	0	0	0	—
	そ の 他	29	54	▲ 25	▲ 46.3

（注）火災による出動件数は、救助活動を行なった件数のみ計上しています。

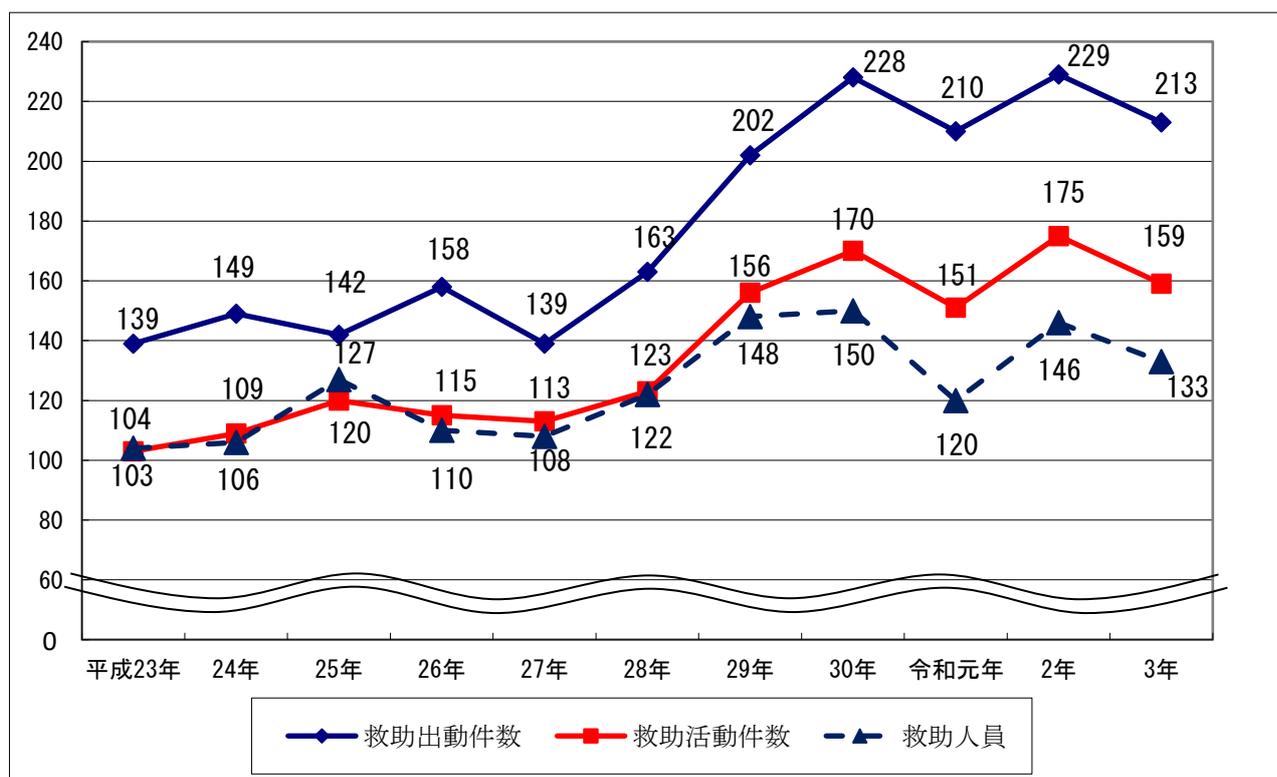
## 2 救助出動等の推移

10年前の平成23年を指数100とした場合、出動件数153、活動件数154、救助人員128となっています。

(▲は減少)

区分 年	救助出動件数			救助活動件数			救助人員		
	件数	指数	対前年 増減率 (%)	件数	指数	対前年 増減率 (%)	人数	指数	対前年 増減率 (%)
平成23年	139	100	—	103	100	—	104	100	—
平成24年	149	107	7.2	109	106	5.8	106	102	1.9
平成25年	142	102	▲ 4.7	120	117	10.1	127	122	19.8
平成26年	158	114	11.3	115	112	▲ 4.2	110	106	▲ 13.4
平成27年	139	100	▲ 12.0	113	110	▲ 1.7	108	104	▲ 1.8
平成28年	163	117	17.3	123	119	8.8	122	117	13.0
平成29年	202	145	23.9	156	151	26.8	148	142	21.3
平成30年	228	164	12.9	170	165	9.0	150	144	1.4
令和元年	210	151	▲ 7.9	151	147	▲ 11.2	120	115	▲ 20.0
令和2年	229	165	9.0	175	170	15.9	146	140	21.7
令和3年	213	153	▲ 7.0	159	154	▲ 9.1	133	128	▲ 8.9

(件/人)



### 3 事故種別・署別出動の状況

事故種別ごとに救助活動の状況をみると、出動件数で最も多いのは、建物等による事故の104件で、全体の48.8%を占め、次いで交通事故の36件(16.9%)となっています。

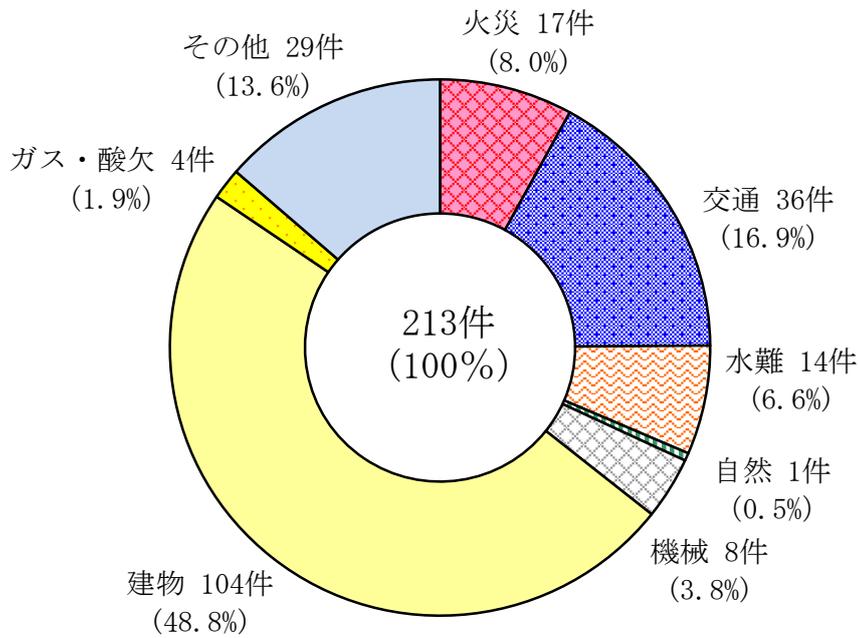
活動件数で最も多いのは、建物等による事故の79件で、全体の49.7%を占め、次いでその他の事故の23件(14.5%)となっています。

また、救助人員についても、建物等による事故が最も多く59人で、全体の44.4%を占め、次いで交通事故の24人(18.0%)となっています。

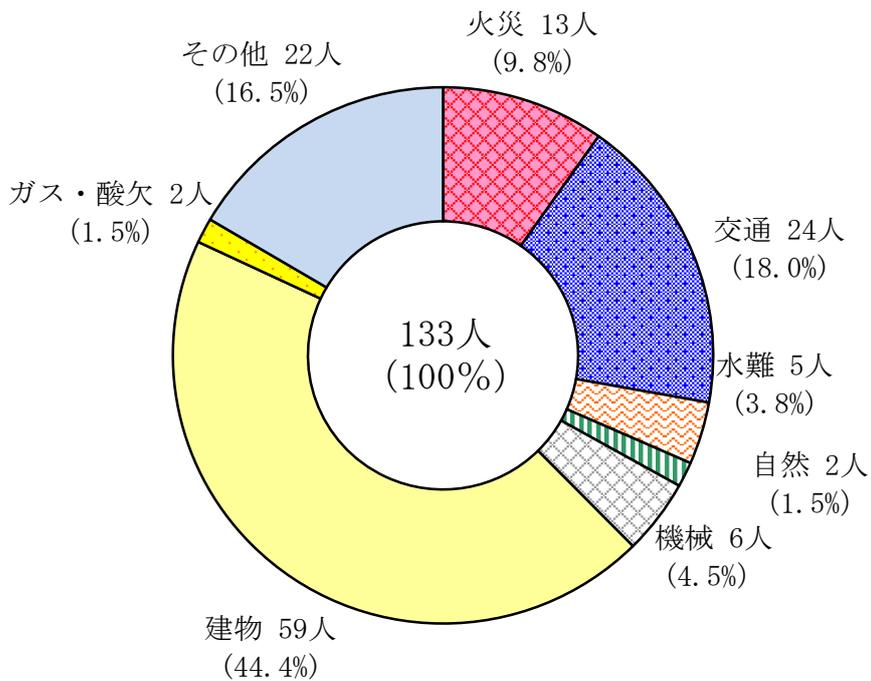
事故種別 署別		火	交	水	自	機	建	ガス・酸欠	破	そ	合
		災	通	難	然	械	物		裂	他	計
中央消防署	出動件数	6	13	3	1	4	37	1		4	69
	活動件数	6	9	3	1	2	32	1		4	58
	救助人員	1	10	3	2	2	24	1		3	46
	出動台数	68	62	19	2	24	188	7		23	393
	出動人員	265	205	59	6	76	614	20		73	1,318
東消防署	出動件数	4	3	2			22			8	39
	活動件数	4	1	1			14			6	26
	救助人員	2	1				11			6	20
	出動台数	45	16	12			111			36	220
	出動人員	166	53	38			359			116	732
南消防署	出動件数	6	15	1		1	26	3		9	61
	活動件数	6	10	1		1	21	2		6	47
	救助人員	0	11	0		1	15	1		6	34
	出動台数	57	82	6		7	134	21		44	351
	出動人員	218	250	21		23	434	61		140	1,147
西消防署	出動件数	1	5	8		3	19			8	44
	活動件数	1	2	3		3	12			7	28
	救助人員	10	2	2		3	9			7	33
	出動台数	17	33	68		18	94			29	259
	出動人員	79	182	220		58	296			104	939
合計	出動件数	17	36	14	1	8	104	4	0	29	213
	構成比(%)	8.0	16.9	6.6	0.5	3.8	48.8	1.9	0.0	13.6	100.0
	活動件数	17	22	8	1	6	79	3	0	23	159
	構成比(%)	10.7	13.8	5.0	0.6	3.8	49.7	1.9	0.0	14.5	100.0
	救助人員	13	24	5	2	6	59	2	0	22	133
	構成比(%)	9.8	18.0	3.8	1.5	4.5	44.4	1.5	0.0	16.5	100.0
	出動台数	187	193	105	2	49	527	28	0	132	1,223
出動人員	728	690	338	6	157	1,703	81	0	433	4,136	

(注) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

### 事故種別出動件数と構成割合



### 事故種別救助人員と構成割合



(注) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

#### 4 月別救助出動等の状況

月別に出動の状況をみると、12月が最も多く24件で、次いで1月と3月の23件となり、月平均17.8件の出動となっています。

区分 月別	出動件数	活動件数	救助人員	事故種別出動件数								
				火災	交通	水難	自然	機械	建物	ガス・酸欠	破裂	その他
1月	23	16	10	4	1	1		1	13			3
2月	21	19	14	2	1			1	10			7
3月	23	16	13	1	6	1		2	10			3
4月	7	6	13	1	2				3	1		
5月	22	18	14		3	3		1	14			1
6月	15	12	10	1	1	1			9			3
7月	11	8	5	2	3	1			5			
8月	19	14	10	1	4	1	1		10			2
9月	14	12	10	1	2	1		1	7			2
10月	18	10	10	2	3	2			8	2		1
11月	16	13	11	2	2	1		2	6			3
12月	24	15	13		8	2			9	1		4
合計	213	159	133	17	36	14	1	8	104	4	0	29

#### 5 事故種別・傷病程度別救助人員

救助人員を事故種別・傷病程度別で見ると、建物等による事故の中等症が27人(20.3%)と最も多く、次いで建物等による事故の軽症と交通事故の軽傷がそれぞれ12人(9.0%)の順になっています。

区分	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
火災		2		11		13
交通	3	2	3	12	4	24
水難	1			3	1	5
自然					2	2
機械		2	2	1	1	6
建物	1	9	27	12	10	59
ガス・酸欠	1	1				2
破裂						0
その他	1	2	6	9	4	22
合計	7	18	38	48	22	133

## 6 発生場所別の出動状況

発生場所別に出動の状況をみると、屋内が133件で、出動件数全体の62.4%を占め、屋外は80件で37.6%となっています。

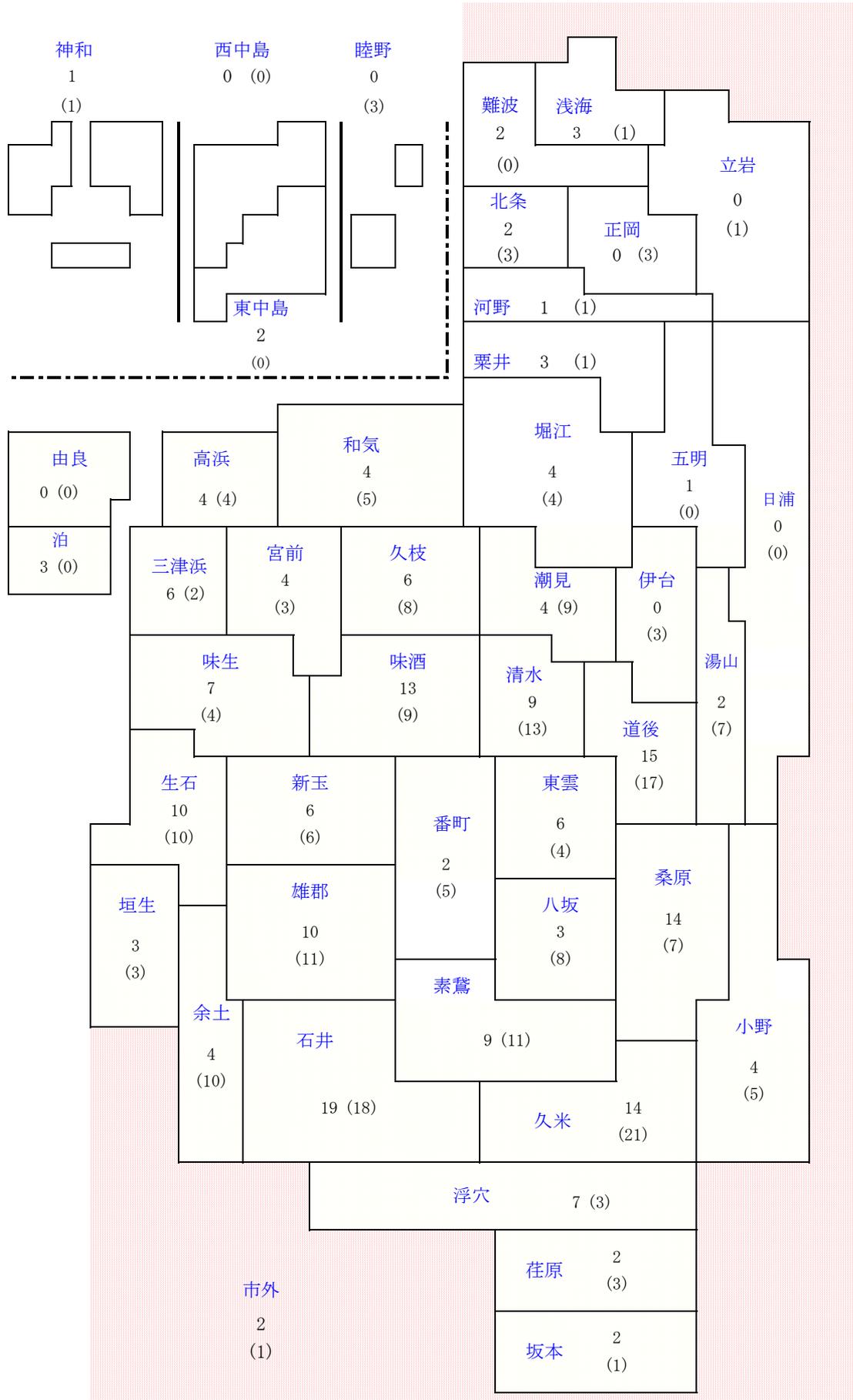
事故種別 発生場所別	火災		交 通	水 難	自 然	機 械	建 物	ガ ス ・ 酸 欠	破 裂	そ の 他	合 計
	建 物	建 物 以 外									
屋 内	17				1	3	103	3		6	133
	13				2	3	58	2		4	82
住 居	14				1		99	3		6	123
	3				2		57	2		4	68
その他の屋内	3					3	4				10
	10					3	1				14
屋 外			36	14		5	1	1		23	80
			24	5		3	1	0		18	51
高 速 道 路			1								1
			1								1
その他の道路			27								27
			16								16
内 水 面			3	5						2	10
			3	2						2	7
外 水 面				9							9
				3							3
山 岳										1	1
										1	1
その他の屋外			5			5	1	1		20	32
			4			3	1			15	23
地 下											0
											0
そ の 他											0
											0
合 計	17	0	36	14	1	8	104	4	0	29	213
	13	0	24	5	2	6	59	2	0	22	133

(注)      救助人員数

## 7 地区別救助出動状況

出動件数 213件 (前年 229件)

※ ( ) 内は前年の発生状況



## 令和3年 火災・救急・救助統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課 火災調査担当

TEL: (089) 926-9247 FAX: (089) 926-9163

E-Mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急・救助統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課 救急担当、消防・救助担当

TEL: (089) 926-9227 FAX: (089) 926-9188

E-Mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp